この地方に別にアーリヤ系のものがいり込んでをつたと見るべきであるか、すべて問題は將來の解決に委ねられねばならぬ。

これが如何なる民族の墓であつたにしても、西洋紀元に近き前後の時代においてこゝに據つた民族が、上述諸種の工藝品を所有したことは事實である。然らば彼等は如何にしてこれを得たか。支那のものを得たのは、當時の漠北の民の生業たる漢地の略奪＝自分は敢てこれを生業と稱する—支那からの賜與、支那の工人の使役、あるいはまた平和の交通などによつたことを認むべきである。同樣の事情を西方に對しても想定すべきであらう。トルコや、ウイグルや、蒙古等の部族が、こゝから騎行に適する地方、卽ちアルタイから準噶爾の地方、天山北方の水草地をたどつて西に乘りだし、露領中央アジアとかペルシヤやウラル地方とかを侵したと同樣の事實が、ずつと古い時代においてあつたかも知れず、然らずとするも直接あるひは間接に、ギリシヤ文明のおよんだ地方との間に交通があり、交易が行はれた結果と見なければなるまい。たゞその交通の道筋については種々に考へらるべく、あるいはシベリヤを東西に貫く一脈を早くから想定する人もあるようであるが、またかく考へる事があるひは當を得て居るかも知れないが、それには尙更に收集せらるべき遺物の上から、一貫した脈絡を求め得べき日を待たねばならぬ。もし記錄の上に立つて判斷するならば、この考に資し得べき材料は皆無といふて然るべきである。時代は下るが唐の時になると、アラビヤの商人が外蒙古から天山の北にかけて勢を有したキルギス人の間に、織物類を賣り込んだ記事が現はれ、蒙古時代になると、初めて外蒙古の地方と伊犂、露領中央アジア、裏海黑海の北方地方などの遊牧種族の間を結びつけた交通路が明確に記錄の上に現はれて來る。然しこの道筋が既に漢代から蒙古地方と西方とを通